収蔵資料展示の紹介

『外邦図で見る戦前のアジアと世界Ⅱ　－満州－』

【5月28日（土）～7月28日（木）】

■外邦図について

「外邦図（がいほうず）」は戦前の陸軍参謀本部陸地測量部（現国土地理院の前身）が、戦略上作製した日本以外（外邦）の地図のことです。軍事目的で作製されたものが多いため、一般の目にふれることはほとんどありませんでした。

しかし、最近は地図の入手が困難な地域や当時の地形環境等を研究するうえで、価値の高い地図として注目を集めています。

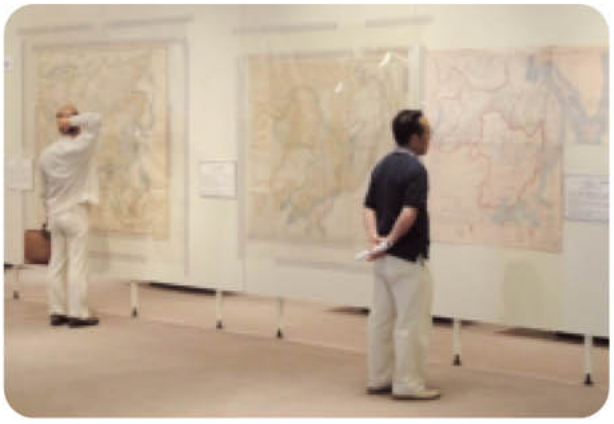
■外邦図の収集について

当館では平成９年度から17年度にかけて、５つの大学（東北大学、京都大学、東京大学、広島大学、お茶の水女子大学）から約14,000枚の外邦図を収集しました。これらの収集した外邦図の目録やインデックスマップは世界分布図センターのホームページ上で閲覧できます。

■利・活用について

平成16年度より毎年、外邦図の歴史資料としての価値をより多くの方々に楽しんでいただけるように、所蔵する外邦図を地域別に順次、展示・紹介しています。

第２回となる今年度は、日本とのかかわりが深かった旧満州の外邦図35点を関連資料（写真や書籍等）とともに展示・紹介しました。



展　示　の　様　子

■展示資料の紹介

「1万分1関東州地形図 假製版『大連』」
関東庁、陸地測量部／1922（大正11）年測図

海の玄関口に位置する大連は、満州で最も日本人の多かった都市でした。ロシア時代からの自由港で、関東州成立後も商港として活発な貿易が行われました。

二百五十万分一 東部中部「ソ」領輿地図
参謀本部、陸地測量部／一九四二（昭和17）年製版

1938（昭和13）年調製250万分１露版図を複製したもので、1942（昭和17）年に東亜研究所による翻訳と、満州国内省界の修正など地図の調整がなされています。

満州国の境界が色表示で強調され、その北部国境沿いのソ連領の記載がきわめて詳細です。